

令和5年度 倫理シラバス

教科名	科目名	単位数	担当学年クラス
公民科	倫理	2	3年全クラス

1：教科・科目の目標

人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2：教科書：高等学校 倫理（第一学習社）

3：科目の学習目標：①現代社会における人間の尊厳を追求する。 ②先哲の基本的な考え方を手がかりに、人間の存在や価値について思索を深める。 ③さまざまな文化や人間の在り方・生き方について多角的に考察する。

4：授業方法・形態：教科書を活用し、副教材や視覚資料を使い、プリントにまとめていくことで学習内容の定着と理解を図る。

5：成績評価の方法：定期考査・授業態度・提出物を総合的に判断して行う。

6：授業の受け方：留意点：出欠状況・授業態度・提出物の良くない生徒については、厳重に対応する。

7：学習指導計画及び評価方法等

学期	月	単 元	学習目標	評価の観点と備考
1 学 期	4 月	第1章 青年期の課題と自己形成 ①よく生きようことを求めて ②青年期の課題 ③自己の探究 1 青年期の心理とパーソナリティ 2 青年期の人間関係 ④現代の青年期	・人間とはどんな生き物なのか。人生における青年期の位置づけや特徴について考え、青年期の課題とは大人になるためのモラトリアム（準備期間）時期、アイデンティティ（自己）の確立、自己実現の追究、自己理解の方法などについて学ぶ。 ・フロイトの防衛機制について、生活体験と照らし合わせながら学ぶ。	・授業中の発問 ・提出物 ・ビデオ教材等
	5 月	第2章人間としての自覚 ①ギリシャの思想 1 哲学の形成 2 ソクラテス 3 プラトン 4 アリストテレス 5 ギリシャの哲学と私たちの生き方	・ギリシャ思想は、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの生涯と思想を中心に学び、その思想がどのように発展し、影響を与えたのかを学ぶ。 ・ヘレニズム思想が登場した背景を学び、国際化が進展した現代社会の倫理と関連させてとらえさせる。	・授業中の発問 ・提出物 ・ビデオ教材等
	6 月	②キリスト教 1 ユダヤ教の世界 2 イエス 3 キリスト教の発展	・日本人の宗教意識や宗教が人間にとってどのような意味を持つものであるかを考える。 ・ユダヤ教の律法主義や選民思想・終末観思想を、ある程度の共感をもって学ぶ。 ・イエスの思想をユダヤ教と対比させ、愛の神・律法の内面化という視点を中心に学ぶ。	
2 学 期	7 月	③イスラーム ④仏教 1 インドの思想文化 2 ゴータマの教説 3 仏教思想の展開	・イスラームの成立、基本的な教義、ユダヤ教・キリスト教との関係について学ぶ。 ・生まれること、死ぬことをインドの人々がどのようにとらえてきたのかを、ユダヤ教・キリスト教思想、日本古来の死生観などと対比させてその特徴を学ぶ。 ・縁起、四法印、四諦が、同じ真理についての異なった教法であることを理解する。	
	8 月	⑤中国の思想 1 中国の思想文化 2 儒家の思想 3 道家の思想	・孔子の政治思想を軸に、徳・礼・仁・孝・君子などの基本用語を学ぶ。 ・儒家と墨家、孟子と荀子、朱子学と陽明学の対比のなかでそれぞれの特徴を学ぶ。 ・老荘思想を学習し、その後の中国思想の展開と日本に与えた影響を考える。	
	9 月	第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 ①日本の風土と伝統 ②外来思想の受容 1 日本仏教の展開 2 日本儒教の展開 ③町人意識のめざめと庶民思想 1 義理と人情 2 国学の成立	・芸術（絵画・音楽など）の作品を通して、芸術家の考え方や生き方を学ぶ。 ・古代日本人の考え方を精神風土との関係でとらえ、宗教観・倫理観などについて考える。 ・仏教・儒教の受容後の日本的仏教の特色、無常観・美意識・武士道などの特色を理解する。 ・本居宣長の「まごころ」「もののあわれ」を中心に国学の思想的意義と歴史的役割について理解する。	

2	学 期	9月	3 庶民の思想 4 伝統思想の成熟 ④西洋思想との出会い 1 幕末の思想 2 明治の啓蒙思想 3 日本社会とキリスト教 4 社会思想の展開 5 近代的自我の確立 6 近代日本の思想課題 第4章 現代に生きる人間の倫理 ①人間の尊厳 1 ルネサンスと宗教改革 2 人間の探究 ②近代の科学革命と自然観 1 近代の科学革命 2 経験論と合理論 3 自然観の転換 ③自由で平等な社会の実現 1 社会契約の思想 2 人格の尊厳と自由 3 人倫と自由の実現 4 功利主義の思想 ④人間性の回復と主体性の確立 1 社会主義の思想 2 実存主義の思想 3 プラグマティズムの思想 ⑤現代の思想と人間像 1 心の深層と無意識 2 近代的理性の批判 3 言語批判と他者 4 正義と偏見 ⑥生命への畏敬と社会参加	・石田梅岩, 安藤昌益, 二宮尊徳, の思想を理解させ, あらためて身分制度について考える。 ・東洋思想の上に西洋科学を受容する「和魂洋才」の背景を理解する。 ・西洋文化受容の中でキリスト教が持つ意義を新島襄, 内村鑑三の思想から考える。 ・国粋主義, 泰西主義, 社会主義の, それぞれの特色を理解させ, それぞれの考え方が当時の社会においてどのような影響力を持ったかについて考える。 ・ルネサンスが人間らしい感情や知性を重視したのと同様に, 宗教改革が人間的なキリスト教に立ち戻る運動であった点を理解する。 ・イギリス経験論や大陸合理論の思想的特色についての理解を深めるとともに, これらの考え方が私たちの日常生活でよくみられる真偽の判断や真理の把握とどのようにつながるものであるかを具体的に考える。 ・ホッブズ, ロック, ルソーの社会契約説の考え方の特色を理解させるとともに, 三者の考え方の相違点を考える。 ・「人間の尊厳」の根拠を, カントの「人格」の考え方をもとにして考える。 ・カントとヘーゲルの自由の概念の差を明らかにし, ヘーゲルの絶対精神の概念を理解する。 ・実存主義の思想が, 個人の生き方だけに限る思想ではなく, 功利主義思想と同様, 他者や社会全体との関わりも視座において「よく生きる」ことを探究した思想であることを理解する。 ・シュヴァイツァーにみられる「生命への畏敬」の思想の特色を理解させ, 彼から学ぶべきことは何かについて考える。	・授業中の発問 ・提出物 ・ビデオ教材等	
		10月				
		11月				
		12月				
3	学 期	1月	第5章 現代の諸課題と倫理 ①生命の問題と倫理課題 1 生殖医療と遺伝子操作 2 脳死臓器移植と再生医療 3 自己決定の尊重と末期医療 ②環境の問題と倫理課題 1 有限な地球環境 2 生物多様性と自然との共生 3 予防原則と世代間倫理 ③家族・地域社会と倫理課題 1 少子化と男女共同参画社会 2 高齢化と地域社会 ④情報社会と倫理課題 1 情報の洪水と情報リテラシー 2 ネットワーク社会と情報モラル ⑤宗教・文化と倫理課題 1 宗教信仰への理解と現代社会 2 異文化理解と多文化共生 ⑥国際平和と人類の福祉 1 地球市民として 2 平和な世界に向けて	・遺伝子操作の是非について, 遺伝子組み換え食品や体細胞クローン羊ドリーを例に考える。 ・脳死という新しい死の判定基準によって, 「生」の意味がどのように変わったのかについて考える。 ・尊厳死や安楽死の意義や問題点について「人間の尊厳」という観点から考える。 ・地球が有限なものであるという認識を常にもち, 限られた環境の中で科学技術の発達と自然環境の保護をすすめていく中で何が今必要なかを考える。 ・核家族, 家族機能, 新しい家族形態, 高齢社会の中での「老い」などについて考える。 ・女性の自己決定権をめぐる状況について, 歴史的な観点から理解する。 ・電子ネットワークが世界規模で広がる中でたくさんの情報があふれている。私達が主体性を失わず生きていくために情報との付き合い方を考え, 必要なモラルは何なのかを考える。 ・世界の宗教を学び, 異文化を理解・尊重し, 互いに敬意を持ちながら共生していくためにどうすればいいか考える。 ・国際平和を希求していくことの大切さを実感させ, 人間存在の尊厳や価値について理解する。 ・国際社会におけるさまざまな問題点に気づかせ, 自立支援の観点に立った国際協力の意義について考える。		
2月						